泉屋博古館東京
SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM TOKYO

泉屋博古館東京(東京・六本木)　2024 年展覧会スケジュール

いつも大変お世話になり感謝申し上げます。2024 年は下記の展覧会を開催いたします。何卒宜しくお願いいたします。

企画展

うるしとともに　―くらしのなかの漆芸美

＊特集展示「受贈記念　伊万里・染付大皿の世界」

2024 年 1 月 20 日(土)―2 月 25 日(日)

アジアの人々が見出した不思議な樹液、漆。ある時は天然の接着剤、またある時には表面に艶と光沢を与える塗料として漆は活用されてきました。そして各地域の特性や美意識に応じて様々な技法が花開き、生み出された多彩な漆芸品は東洋の人々のくらしに深く根差してきました。本展では、住友コレクションの漆芸品の数々を、用いられてきたシーンごとにひもとくことで、漆芸品を見るたのしみ、使うよろこびについてもう一度考えたいと思います。

また同時開催として、漆芸品と同じく私たちのくらしを彩ってきた陶磁器のなかから、近年当館へご寄贈いただいた瀬川竹生コレクションの染付大皿を受贈後初めて公開します。江戸時代後期に佐賀県・有田地域でつくられた染付大皿の斬新で大胆な意匠は、圧倒的な迫力で、粋な青と白の世界へみなさまを誘います。(単館開催)

おもな作品：象彦《扇面謡曲画蒔絵会席膳・椀》大正時代・20 世紀　泉屋博古館
《染付玉取龍文大皿》江戸時代後期・19 世紀　泉屋博古館東京（瀬川竹生コレクション）

企画展

ライトアップ木島櫻谷

―四季連作大屏風と 沁(し) みる 生写(しょううつ)し

2024 年 3 月 16 日(土)―5 月 12 日(日)

大正 6 年に大阪天王寺の茶臼山に竣工した住友家本邸を飾るために描かれた木島櫻谷の「四季連作屏風」を全点公開。上質な金地にそれぞれ季節の花を趣向を変えて描いた高さ 180 センチにもなるこの四双の大屏風は、制作途中で新聞に報じられるほど、当時世間の耳目を集めていました。

大正期の櫻谷は、独特な色感の絵具を用いたり、顔料を厚く盛り上げ、筆跡を立体的に残し油彩画のような筆触に挑戦しています。そのために櫻谷は、＂技巧派＂とか＂大正の呉春＂とか、＂最後の四条派＂などと称されましたが、櫻谷の真骨頂は、それに収まらない極めて近代的なもので、古典画題に時代を超越する現代性を与え、リアルな人間的な感情を繰り込んでいます。絵の中の花鳥動物たちは櫻谷の筆を通して息を吹き返し、生き生きと輝きはじめ、とりわけ、動物が折節にみせる豊かな表情が観る者の心に沁みます。江戸時代中期京都で生まれた円山四条派の代表的な画家たちによる花鳥画表現を併せて紹介することで、櫻谷の「生写し（しょううつし）」表現の特質をライトアップします。(単館開催)

おもな作品：木島櫻谷《柳桜図》大正 6 年（1917）泉屋博古館東京
幸野楳嶺《蔬果図額》明治 20 年（1887）頃　泉屋博古館東京

泉屋博古館東京
SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM TOKYO

企画展

歌と物語の絵

―雅やかなやまと絵の世界（仮）

2024 年 6 月 1 日(土)―7 月 21 日(日)

(巡回：泉屋博古館 2023 年 6 月 10 日（土）～7 月 17 日（月・祝）)

古来、語り読み継がれてきた物語は、古くから絵巻物など絵画と深い関係にありました。和歌もまた、三十一文字の世界が絵画化されたり、絵に接した感興から歌が詠まれたりと、絵画との相互の刺激から表現が高められてきました。物語絵や歌絵の特徴のひとつは、精細な描写と典雅な色彩。宮廷や社寺の一級の絵師が貴人の美意識に寄り添い追求した「やまと絵」の様式を継承することでしょう。広い階層に広がった近世には自由で個性豊かな屏風、絵巻も登場します。本展では館蔵の住友コレクションから、近世初期の物語絵と歌絵を選りすぐって紹介します。

おもな作品：《竹取物語絵巻》江戸時代・17 世紀　泉屋博古館
　　重文《是害房絵巻》南北朝時代・14 世紀　泉屋博古館

特別展

昭和モダーン、モザイクのいろどり　板谷梅樹（いたやうめき）の世界

＊同時開催「特集展示　住友コレクションの茶道具」

2024 年 8 月 31 日(土) －9 月 29 日(日)

（巡回：板谷波山記念館　2024 年 4 月 20 日(土)～6 月 23 日(日)）

昭和時代、モダーンなモザイク作品で人々を魅了した板谷梅樹（いたや・うめき、1907-1963）という作家をご存知ですか。モザイク画は陶片などのかけらを寄せあわせ、絵や模様を生み出すもので、１９世紀末のアール・ヌーヴォーの流行と共に欧米から日本に伝わりました。

梅樹は、ステンドグラスに惹かれ、近代陶芸の巨匠であった父・波山（1872-1963）が砕いた陶片の美しさに魅了され、モザイク画を発表します。代表作は、旧日本劇場一階玄関ホールの巨大なモザイク壁画で、陶片の色彩を活かした壮大なモザイク壁画は、当時の人々を驚嘆させたに違いありません。帝国美術院展覧会（帝展）をはじめ公募展にモザイク額などを発表した梅樹は、モザイク作家として活躍しました。

本展では、梅樹が手掛けたエキゾチックなモザイク額、美しい飾筥やペンダントヘッドなどの愛らしい装飾品を通して、板谷梅樹の人となりに迫ります。

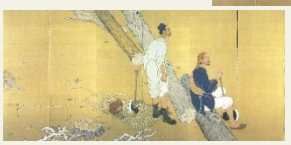
おもな作品：板谷梅樹《モザイク額「花」》昭和時代・20 世紀　個人蔵
　　板谷梅樹《モザイク額「キリン」》昭和時代・20 世紀　個人蔵
　　板谷波山《彩磁更紗花鳥文花瓶》大正 8 年(1919)　泉屋博古館東京蔵

泉屋博古館東京
SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM TOKYO

特別展

オタケ・インパクト

越堂（えつどう）・竹坡（ちくは）・国観（こっかん）、尾竹三兄弟の日本画アナキズム



2024 年 10 月 19 日(土)－12 月 15 日(日)

かつて、官展や異画会等を舞台に輝かしい活躍を見せた三兄弟の画家がいました。
新潟県に生まれた尾竹越堂（おたけ・えつどう 1868～1931）、竹坡（ちくは 1878～1936）、国観（こっかん 1880～1945）の三兄弟は、文部省美術展覧会をはじめ、明治から昭和にかけて様々な展覧会で成功を収め、まさに「展覧会の申し子」として近代日本画史にその名を残しました。しかしながら、時に実験的ともいえるラディカルな制作を試み、また破天荒な生き方を貫いた尾竹三兄弟は毀誉褒貶にさらされ、これまでの美術史の語りからは見過ごされてきました。
本展は、東京で尾竹三兄弟を紹介する初めての展覧会です。彼らの重要作をはじめ、多数の新出作品や未公開資料から、知られざる尾竹三兄弟の人と作品を紹介します。また尾竹三兄弟は、住友家第 15 代当主・住友吉左衛門友純（号：春翠）と親交を結んだことから、その交流についても紹介します。そして展覧会制度のなかで躍動した三兄弟の作品を一堂に会すことで、日本画の豊かな展開と展覧会芸術の到達点をご覧いただきます。(単館開催)

おもな作品：尾竹越堂《漁樵問答》大正 5 年（1916） 個人蔵
尾竹竹坡《九官鳥》明治 45 年（1911） 個人蔵
尾竹国観《人物図》明治 30 年代 泉屋博古館東京蔵

《基本情報》

館　　名：泉屋博古館東京(せんおくはくこかんとうきょう)
SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO
住　　所：東京都港区六本木 1-5-1
電　　話：050-5541-8600(ハローダイヤル)
観 覧 料：一般　企画展 1,000 円(800 円)・特別展 1,200 円(1,000 円)
高大生　企画展 600 円(500 円)・特別展 800 円(700 円)
※20 名様以上の団体のかたは(　)内の割引料金
※障がい者手帳等ご呈示のかたはご本人および同伴者一名まで無料です
※展覧会により料金が変更になることがあります
開館時間：11:00－18:00(入館は 17:30 まで)※金曜日は 19:00 まで(入館は 18:30 まで)
休 館 日：月曜日(祝日の場合は翌平日)、展示替え期間中、年末年始
U　R　L：https://sen-oku.or.jp/tokyo/

＊読者様へのチケットプレゼントはすべての展覧会におきましてご提供可能です。制作スケジュール上、お送りは該当展覧会開催の２－３か月前になりますこと、あらかじめご了承ください。

《お問い合わせ先》 泉屋博古館東京 (広報担当 橋本旦子)
TEL: 03-3584-8136　FAX: 03-3584-8137　E-mail : pr-tokyo@sen-oku.or.jp

泉屋博古館東京
SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM TOKYO

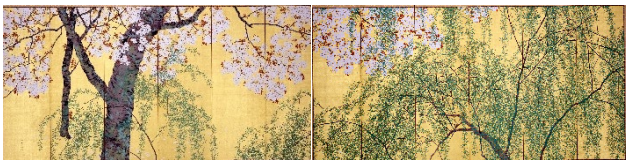
提供可能画像・キャプション一覧

企画展 うるしとともに　―くらしのなかの漆芸美

象彦
《扇面謡曲画蒔絵会席膳・椀》
大正時代・20 世紀
泉屋博古館

《染付玉取龍文大皿》
江戸時代後期・19 世紀
泉屋博古館東京
（瀬川竹生コレクション）

企画展　ライトアップ木島櫻谷 ―四季連作大屏風と沁みる生写し



木島櫻谷《柳桜図》大正 6 年（1917）泉屋博古館東京

幸野楳嶺
《蔬果図額》
明治 20 年（1887）頃
泉屋博古館東京

企画展　歌と物語の絵　―雅やかなやまと絵の世界（仮）

《竹取物語絵巻》（部分）江戸時代・17 世紀　泉屋博古館

重文《是害房絵巻》南北朝・14 世紀　泉屋博古館

特別展　昭和モダーン、モザイクのいろどり　板谷梅樹の世界

板谷梅樹
《モザイク額「花」》
昭和時代・20 世紀
個人蔵

板谷梅樹
《モザイク額「キリン」》
昭和時代・20 世紀
個人蔵

特別展　オタケ・インパクト　―越堂・竹坡・国観、尾竹三兄弟の日本画アナキズム

尾竹越堂
《漁樵問答》
大正 5（1916）年　個人蔵

尾竹竹坡《九官鳥》
明治 45（1911）年　個人蔵

尾竹国観《人物図》
明治 30 年代
泉屋博古館東京